令和６年度福島県立石川高等学校
第３回学校運営協議会及び意見交流会 開催記録

■日　時　令和６年１１月１０日（日）10:50～12:20
■場　所　石川高等学校　会議室
■参加者　委員
　熊井トシエ、水野 憲一、二瓶 伸一、佐川 正美、石沢 泰蔵、宗像 研也、小川 和英
事務局（石川高等学校）
　事務長、教頭、石川町高校魅力化コーディネーター

１　開会のことば　　事務局

２　会長あいさつ及び趣旨説明　　熊井会長

本日は、委員の皆様のご出席をいただき、加えて傍聴のためご出席いただきました皆様、本会が目指す地域に開かれた学校へのご協力にご賛同いただき誠にありがとうございます。

本学校運営協議会について、本日第３回を迎えました。これまでの活動を振り返りますと、６月１３日、第１回を開催し、運営協議会の立ち上げに伴い、学校経営・運営ビジョンの承認、そして各分科会に分かれ、成果目標と活動計画のアイディア出しを自由に行いました。

７月２９日、第２回では、成果目標の決定と活動計画の設定を行い、今年度の本会の目標を「小さな学校だからこその地域と連携したカラフルな教育の提供」に決めました。そこで、本日は、石菜祭との同時開催を利して、本会委員様よりご意見をいただくとともに、郡内外からの有識者様からのご出席を賜り、石川高校の現在と将来についてご意見を頂戴し、本会としてまた違った視座で石川高校を見直す機会にしたいと思います。

また、教育講演会として本校卒業生の大石さんをお招きいたしました。大石さんは高校時代、生徒会長を務められ、生徒会の視点から石川高校の発展を考えてこられました。演題は、「県立石川高等学校と現在の私　副題として、地域探究活動をとおして」であります。石川高校の「いしかわ WORK＆LIFE 教育」の教育課程を修められた後の大石さんのご活躍に触れながら、石川高校生への教育環境を考えてまいりたいと思っております。

本会発足からおおよそ７か月が経過しました。

委員の皆様には、これまでの石川高校の取組について中間評価をしていただきながら、また今年度の下半期の活動へ向けての助言をいただきたくお願い申し上げます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

３　石川郡内外有識者紹介　　事務局

遠藤　勧　様　　平田村　令和２年度石川高校父母と教師の会会長
矢内　孝史　様　石川町　石川自動車教習所　専務取締役
　一般社団法人いわき石川青年会議所グローアップ委員会委員長
田上　育樹　様　白河市　福島大学人間発達文化学類　F-cation　ホップ　代表
　福島市まほろば学習塾開設
大石　修吾　様　東北学院大学　地域総合学部　地域コミュニティ学科

４　意見交流会

○　テーマ１　県立石川高等学校の魅力について

（１）石川高校　校長　小川　和英

皆さん意見交流会にご参加いただきありがとうございます。

本校で自慢できるところですが、一番は魅力たっぷりの生徒たちです。どの様なことにも、前向き、真面目で謙虚、そして優しい生徒が多いです。他者のこともしっかりと考えることができる生徒ばかりです。私が考えるに、これは石川郡の温かい風土からきているものではないかと思います。

そんな、石川郡、特に石川町と連携させていただき、週に１回の職業体験、年間を通した探究活動だけではなく、合同防災訓練、つい先日には同窓会長がお仲間をつれて授業をみにきていただけるなど、地域の方々と直接触れ合う機会が多いことが本校生の成長に非常に役立っていると思っています。

次の魅力ですが、小規模校であることです。

数は力であり、その点では部活動数一つとっても大規模校と比較すると難しい面があります。ですが、小さくったって負けていないという自負心を生徒も教員ももっています。今回の文化祭をとっても生徒と先生が一体となって、足りないところを知恵と努力で補いながら築き上げたものです。意見交流会後、時間がありましたら校舎内をみていただけるとその様子を伺うことができるかと思います。そして生徒会の先生のお力も大きいのですが、球技大会などの各種行事は生徒会の役員が中心となって非常に盛り上がります。小規模であることを最大限利用し、知恵と工夫で全員参加の行事を行っています。

最後の魅力は多様性を認めることができることです。今回の文化祭のテーマは「カラフル」です。生徒・教員全員のアンケートで決まったものです。副題にあります通り、ひとりひとりが主人公、輝く主体でありたいという皆の思いがつまったものです。その背景には、互いに違いを認め合い、許しあうことを大切にし、自分と他者の尊厳を守ることができる学校でありたいという矜持と希望がつまっています。

まとめになりますが、石川町・郡の皆さんにご迷惑をおかけしながらも温かく見守っていただいていること、小さい学校でも負けないぞという生徒と教員の自負心と愛校心、そして他者を大切にできる学校でありたいという寛容性、少し大げさなところはありますがこの三点が本校の魅力だと思っています。

（２）父母と教師の会会長　宗像　研也　様

石川高校父母と教師の会の会長を務めております。どうぞよろしくお願いします。

高校の魅力という点でありますが、ほとんど校長先生からたくさんお話しされまして、私からは普段の子供たちの様子から意見を述べます。子供たちが来賓の方々に挨拶するのは当然当たり前の姿でありますが、今回は学校行事が理由で本日のような改まった格好ではありますが、日常のカジュアルな服装でふと学校に来る機会がありますと、そのような時にも、すれ違う子供たちから、気

持ちの良い挨拶をいただきます。

義務教育まででしたら、学校でのマナーという点で指導された挨拶に留まりますが、高校生ともなると、至極自然にそして当たり前のように、きちんと挨拶してくれる姿は大変爽やかな印象を抱きます。

校舎に入ってからも先生と子供たちが、すごく気楽に楽しそうに話をしている姿をよく見ます。先生からも決して威圧的に大人としての意見を述べられることがないため、子供のほうも構えたような感じはなく、とてもお互いを尊重し合うような関係、それでいてきちんと礼節をもって話をしている姿、そして生徒と大人と職員の皆さんと心の通い合う関係を築いている日常は、とても良い学校であると思います。言い換えると、とても望ましい人間関係が育まれている学校であると本当に感じています。

学校で取り組んでいる活動ですが、例えば昨年、１００周年記念式典の際に配られた「リンどら」は、とてもおいしかったですね。お菓子のさかいさんと協働で作られたものですね。この資料１ページ目にあるサツマイモは、10 月 26 日（土）、中谷地区で開催された、「なかたにマルシェ」で販売された「いもごろ大福」です。「くわざわ菓子店」から協力頂いて作られた創発的な菓子だと新聞に出ていました。本日配れましたお菓子は、「果樹カフェ季楽郡山」店とのコラボと聞いています。子供たちが企画した案を、地域のたくさんの業者さんが一社ではなく複数の業者さんが真剣に取り上げられ、事業の中で生徒の思う形にしてくれる、このような子供たちが地域に入っていく活動が実を結んで生徒の手に還ってくる循環された地域学習が石川高校の魅力であると思います。また、このような販売力を生徒の家族や、地域の方々にも成果として広報したいなという思いがあります。

先日、町内で買物をしていた際、１０年前の知り合いの方に久しぶりに会いました。知り合いの方の娘さんは、〇〇中学校に在籍し、学校見学を幾つか夏休みに行ったようです。親御さんは、様々な選択を考えていたようですが、娘さんは家から近い学校を視野に入れられ、中でも１番印象に残り、魅力的に感じたのが石川高校だったと話していました。学校を選択する際、まず子供たちは、自分の先輩となる人たちがとても生き生きとやりたいことをたくさん実践している、学校の雰囲気がとてもよかった、そのような学校文化をすごく魅力的に感じてくれているようであり、現在の中学生から見ても、もう現在の姿そのものがとても魅力的な学校に写っているというのが心からうれしく感じられました。

今後は、どのように学校について発信して、どうやって直接学校を見てもらうか、それが大切だと思います。これからの発信の仕方、地域の方々に直接見てもらう機会をいかに作るかというテーマに、本会をとおして考えていきたいなと思います。これからも考えましょう。

本日はよろしくお願いします。

（３）矢内　孝史　様

私も本校を卒業しております。2018 年の卒業ですので１３年前にさかのぼります。近くで勤務していますので、本校を卒業した身としての感想と、普段から分かる石川高校の良さについてお話できればと思っています。

先ほど校長先生やＰＴＡ会長さんが話されていたとおり、石川高校は、生徒と先生の距離が近く、先生が親身になって生徒の進路や悩みを考えてくれています。

私の学生時代を思い返したとき忘れられないのは、当時選択授業があり進学ための小論文の授業があり、先生が進学のための指導をしていました。その折、机上の指導にとどまらず、何か外で活動しよう、みんなで地域の中でできることを考えよう、と鼓舞されたことがありました。私たち生徒はみんなで、ボランティア活動を企画し、先生も率先して休みなく参加してくれました。石川高校には、当時からこのような先生の優しさがありました。

私は、自動車教習所で指導をしている立場から高校生と接する機会が非常に多くあります。昨年の卒業生、つまり昨年の教習所の卒業生とお話をした時、先生方と仲が良い、学校が楽しいと語っていました。今年になってからも教習所に来ては、「今、こういうことをします」と話され、こうした受け応えからも、大変石川高校へ良い印象を持っておられる、それだけ生徒と高校の関係がいいのかなっていうのを私は感じます。

もう１点が、現在取り組まれている「いしかわ WORK&LIKE 教育」のキャリア教育ですが、こちらは週に１回地域へ赴き現場実習をするインターンシップの要素を含む学習ですが、こちらは青年会議所の協力も頂いています。青年会議所内で、様々な業種の方と話す時がありますが、県立石川高校の方を受け入れる業者さんは、皆さんそろって、高校生がみんな一生懸命働いて、卒業後もそのまま就職してくれないか、と希望を話す方もおり、実に生徒の皆さんが自分から意欲的に活動してるようです。

あらためて生徒さんですが、真摯で真面目という点が魅力的な部分だと思います。以上の点から、さきほどＰＴＡ長さんから最後にありましたが、恐らく、このような魅力が余り広がっていない課題があると思うんです。広げる手段として、インスタグラムを生徒会が活用されていますが、是非、さらに頻度を上げた発信につなげてはどうかと思っております。

以上が意見でありますが、何より本日ご招待いただきありがとうございました。

○テーマ２　地域にとって県立石川高等学校とは

（４）石沢　泰蔵　様

御紹介頂きました。石川中学校校長石沢泰蔵ございます。

私からは、石川中学校から見える県立石川高等学校という視点で意見申し上げます。石川高校はもちろん１番近い高等学校、歩いても物理的な距離という点でも通いやすい高校であります。

当然ではありますが、現在石川中学３年生は、１２０名、今後ますます減少傾向をたどり、石川高校規模の生徒を見渡したときに、やはり現在の生徒数を考慮すると、県立石川高校だけの問題ではなく、全県において直視しなければならない課題であると私は思います。

年が明ければ高校入試に係る倍率が出て、恐らく、昨年度と同様な倍率が県内各地で見られるかと思います。具体的に言いますと、県立高校、多くの学校が定員を割ることも想定しなければなりませんが、これは学校に魅力がないから、と言われているからではありません。もうお分かりかと思いますが、生徒を募集している生徒数が多いから、倍率１を切る、それが小さな学校ほどネガティブな影響を受ける傾向があるようです。

石川高校には、会場の皆様がお話頂いた魅力を私も感じております。昨年度石川中学校に赴任してから何度も、石川高校を伺う機会がありましたが、皆さんが仰っているとおりの魅力が石川高校にあります。それを享受できる生徒がどうしても少なくなってしまう。この傾向は、他の高校にも見て取れ、定員を割ってしまう募集をしているために、各地区各校にも同様に表れてしまう。

校長先生が仰ったように小規模校であるために、１人の募集、志願者数が減ればその１人の重み

が、石川高校さんに影響されてしまいますが、先ほど物理的に近いと申し上げたとおり、やはり宗像ＰＴＡ会長さんが仰ったように、様々な石川高校の良さを知り、石川高校を選択する生徒がいます。家から近く、時間を目いっぱい使って学校生活を送りたいという生徒が必ずいる。そして、そのような生徒たちに、石川高校が取り組んでいる情報が届き志願者が増加する、これからは一層期待できると思う。

石川郡内の県立高校で歴史もあり、地域から育てていただいている教育課程がある。また、多様な進路に対応した指導もなされ、就職、進学どちらにも出口がある学びがある。生徒さんが様々な願いをもち、それらを引受ける学校に、育成を預かる学校に大変感謝をしております。

本日はこのような機会をいただきありがとうございます。

（４）水野　憲一　様

石川町役場企画商工課長の水野です。どうぞよろしくお願いいたします。

地域にとって県立石川高等学校とはということで、私自身行政の立場ですから、自治体を運営する視点で御意見を申し上げさせていただきます。

昨年１００周年を迎えまして、１万５，０００名を超える卒業生の方を輩出され、その方々が地域を支えてこられた立場は、地域にとって非常に大きいものと、町としても捉えているところでございます。

何といいましても、「まちづくりは人づくり」と言われるように、石川高校の存続は石川町にとって文化的にも計り知れない損失につながるとともに、地域に学びがある安心感を取り上げた時、子供が育てられる教育環境の崩壊を意味する致命的な問題であるととらえているところでございます。

具体的には、次のような影響も想定されております。本町には私立高等学校もありますが、そちらを今回、想定なしで県立の公的な高等学校の教育を行うというような視点で申し上げさせていただきますと、まず、高校がなくなれば子供たちは中学校卒業とともに町を離れ、１５歳から１８歳の子供たちが町に存在しなくなる。また、離れることによって、移った先での生活に適応できない生徒も出てくる懸念、そして親も併せて、町を離れ移り住むというケースも出てきます。また、若年世帯の定住には、定住している自治体、教育環境に高校が存在しているという環境が必須条件で選ぶと思われます。ですから、高校がない地域に子供を連れて住もうかという判断が出てこなくなってくるのではないかと思います。

また、高等学校の生活を町外で送るような生活をしていくということに対しましては、その３年間において、出身地の町に対しての愛着が薄れる可能性がございますので、いつかこの地域に戻っていきたいというような意識は薄れ、出身地で生活するという選択がなくなってしまう、という心配も感じているところでございます。

結果的に、将来町に戻ってくるＵターン率は低下するものと考え、また、一部ではございますが、町外で生活するということで寮等に入れば、出費が伴いますので、経済的な見通しも持たなければなりません。ですから、子供の数の多い家庭はおのずと町外への流出可能性があると思われます。結果、教育費の負担増により、子供を産むことへの不安が高まり、さらなる出生率の低下につながると考えております。

以上のように、子供の健全な発達、ふるさと教育、保護者の経済的負担、少子化 UI ターン定住、文化の継承や地域活性化など様々な観点において、高校を失った後の影響は甚大であるというふう

に考えております。

あらたに、産業創出や教育、子育て支援の充実により、若者のＵＩターンや出生数を増やし、持続可能なまちづくりを進めようとしても高校という砦を失えば少子化高齢化、過疎化に歯止めがかからなくなり、それらの努力は水の泡となることと考えております。

石川町におきましては県立石川高校の存続は、地域の存続や未来へ直結する大きな課題であるととらえているところでございます。

以上ございます。

（５）田上　育樹　様

私は、皆様方のお役職のお立場と違い学生の立場から僭越ながらお話申し上げます。

私たちも先日、９月２６日、石川高校で交流事業を行いました。広い意味では地域とのかけ橋になっているのかなと思っております。これは生徒としてでもあり、地域としてでもあるのではないかなと感じております。

私たち学生がこの間交流させていただきましたが、本サークル学生は、北は北海道、南は高知まで全国各地からの部員構成です。石川高校の授業を拝見する機会に恵まれましたが、先生方と生徒さんが、笑顔の中で対話を重ねながら授業を行っている様子、探究活動の取組を伺うにつけ、様々な経験をした学生が集う我々もこのような学生生活を送りたかったな、と感想を述べ合いました。

また、私たちは石川町の児童クラブで活動しておりますが、ある時、私の友人との会話の中で、私たちが昨年から石川町で活動し、石川町と交流している話題に及ぶと、石川高校のご出身ではないのですが、その友人も石川町で何かやってみたいと希望があったのですが、どうやったらいいか分からなかったという話を伺いました。その友人は、私たちの活動に感銘を受けた様子で、一緒に参加させてくれない、と話され石川町の児童サークル活動を共にしました。

私たちのように、地域で何か石川町に向けてしたいと思っているが、できない。どのように、そして何をしていいか分からない、どうやってつながっていいか分からないっていう、人間と人たちのこの関係が、地域とのかけ橋、地域と生徒のかけ橋になっているいかと思いました。

私たちは、皆様が話されていたように、生き生きとした生徒の皆さんと触れ合うにつれて、様々な活動や交流ができるのではないかと一層思っております。

今後もどうぞよろしくお願いいたします。

○　テーマ３　県立石川高等学校に期待すること

（６）遠藤　勧　様

資料では、平田村にはなっていますが現在仕事の都合で関東におり、交通省関東地方整備局に勤務しております。今日は県立石川高校のため、是非出席させていただきたいと思いましてまいりました。

私はＰＴＡ会長を務めさせていただいている時から、石川郡内の各町村長さんや、各団体、代表の方がお集まりになられ、石川高校のさらなる発展や、石川高校の存続を守っていきましょうということで、活動に参加させていただきました。今回はこのような運営協議会の一員として迎えていただきまして本当にうれしく、各代表の方ですとか、行政課長様に集まっていただき、このような機会に恵まれましたこと感謝申し上げます。

私が父母と教師の会会長の任を頂いてる前から、石川高校は当地区において大事な学校であると思っておりました。特に、私立高校は隣にありますけれども、石川郡内で、その周辺の市町村で、普通科の学校というのは石川高校しかないと感じております。生徒を迎えるに当たり、石川高校を選ぶに理由は、郡内からの通学アクセスがし易い点が挙げられます。話がそれてしまいますが、小規模校としての魅力の一つというのは、先生方の目線が生徒一人一人に届く、ところだと思います。大規模高校だとなかなかそのようにはいきませんが、先生方とのつながりが強くなることが本校の強みとして挙げられます。

そして、何度もお話の中にありましたように、地域と連携した「いしかわ WORK&LIFE 教育」の中で、地域との関わりが保てることは生徒にとって貴重な学びの場につながり、地域と学校が共にウィン・ウィンの関係が築かれると私は思っております。様々な活動計画、実施された活動内容を聞きますと、本当に石川町の行政の皆さんが協力され、また地元の企業さんの協力を頂いて、生徒たちが自分の興味を持ったものに体験できる３年間を謳歌できると思うと、私の高校生活にもそのような活動があれば良かったなと本当に振り返ります。

地域との関わりのみではなく、地元の企業さんとしても高校生の視点で様々な意見を聞けたり、あとは高校生が多岐にわたる職業に体験できたりすることで、今後は地元にこのような企業があったんだったと魅力を改めて再認識でき、離職率の低下にもつながる要因の一つにもなると思います。さらに、興味関心を持ったことを進んで学び、そして地域の方々と交流を深めることで社会とのつながりをとおして、多様性を感じまた、地域で学び、そして地域へ伝えるという循環した学びから、私は県立石川高校の存在に対して、これからさらに期待をしております。

最後に、本日石川町の課長様方からは、石川高校へ地域資源を活用した学びを提供いただいていますが、是非、これからも地域の企業さんのご協力を頂きながら、もっと幅広く多業種からのご支援を頂いくことで、地域の担い手の解決策にもつながると思っております。生徒たちには地域を元気にできる力がある、そして若い人が定住していただくと町の活性化に直接かかわってくると思います。是非協力を頂いて、また石川町の各団体様のご協力を頂いて、我々も石川町への協力を続けてまいりたいと思います、そしてさらなる石川高校の魅力発信に協力できればばいいなというふうに感じております。

本日は、参加依頼を頂戴し誠にありがとうございました。

５　御礼

（１）学校運営協議会会長　熊井　トシエ　様

本日は休日にもかかわらずご出席いただき誠にありがとうございます。

１つ目のテーマ、「県立石川高校の魅力について」では、地域が石川高校を支える温かさ、生徒がもつ寛容さなど、私たちが知らなかった魅力に気づく機会になりました。

２つ目のテーマ、「地域にとって県立石川高校とは」では、多くの卒業生が地域内で活躍されている点、人口減少に高校教育が寄与する点など、石川高校が存続以上に、今後も地域にとって必要な高校として地域の教育機会を提供する役割を認識しました。

３つ目のテーマ、「県立石川高校に期待すること」では、いしかわ WORK&LIFE のさらなる充実、多様な進路に応えるなど、本会にとって目指すべき姿を提示いただきました、第４回、第５回での学校運営協議会において取り上げてまいりたいと思います。

最後に、本日の石菜祭は、前回のコロナ禍の入場制限を経て、６年ぶりの一般公開です。お時間の許す限り、どうぞご観覧いただき、本校生徒へ励ましのお声掛けをいただけましたら、生徒にとって地域と本校の密接な地域連携を実感し、また、今後の生徒の学校生活にも有意義に働いていくものを思っております。

今後も、本会が掲げる「カラフルな教育活動の提供」についてご忌憚のない助言をいただきたく思います。

本日はありがとうございました。」

（２）校長　小川　和英

本校校長より、お礼申し上げます。

多くの方々から本校の魅力、加えて御期待を頂き、ありがたく感じていると同時に、校長自身襟を正して頑張っていく気概をあらたにいたしました。

石川町課長さん、そして石沢校長先生、他の方々からも、本校の生徒の良いところのお話を頂きました。私は石川町が地元ではありません。石川町には学法石川さんもあり高校がないわけではない。他の地域では、高校自体が県立しか存在しないという自治体があります。だから存続の必要があるんじゃないかと考えます。一方で、私立高校さんは大きな規模の学校であります。スポーツの分野も含めて勉学も、それから義塾中学校も併設され県立石川高校の役割は一体どこに置けばいいのか。それは学校としても考えるべき課題であり、地域としての課題でもあると思います。

以上を踏まえた上で、本校の特徴は、誰かがそばにいてくれると大きく伸びる子、逆に言いますとつながりを非常に大切にすることです。例えば、町内を歩いた時、高校生がいるっていうことは地域への力になると思うんです。高校教員という視座で申し上げているわけではありません。小学生や中学生、子供からお年寄まで、多くの年齢層がいると町に元気が湧いてくる。その中で、例えば、学石さんで伸びる子もたくさんいると思うんです。たくさんの生徒の中で、多くの同郷同級生と切磋琢磨しながら時には友情に亀裂が入ったりしながらも、スポーツの厳しさをとおして成長する、そのような過程で伸びる子もいる。他方、人とのつながりの中で、ゆっくりと、自分の将来を深く考えながら延びる生徒もいる。

今申し上げたような生徒がたくさんいる町は魅力につながります。しかしながら、石川町の子供たちへ石川町に残りに残ってください、のようなことはもちろん言いません。進路は自由です。しかし、もしここに残れば、こういった温かいつながりを感じ、その中で育った子はきっと大人になってもつながりを大切にすると思います。この石川町、もしくは石川郡で活躍され、そして、福島県の人口減少をとめるのはなかなか難しい部分はありますが、少なくても、つながりを持てば様々なことができ、活性化も考えて住みよいまちづくりに貢献できる生徒になってくれるのではないかと、今さらに改めて感じたところであります。

これまで校長としても足りないところはありますが、ご指導ご鞭撻頂きながら、学校運営をしていきたいと思っておりますので、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

６　教育講演会

本校 HP にて動画配信

７　閉会のことば　事務局